

【三重山田製津子】

「大事なものは新しい発想と向上心。想定の運送会社に勝とうと思わないのではなく、高い目標を掲げ、それに向かって利益の出せる仕組みづくりをする。これが重要」と語るのは、中田製事（三重）上野

中田製事

中田 純一さん

採用、カード、メール、トラックを駆使した



市の中田純一社長。設に直接つながり、会社概 算が可能な現場製作用 立から三年、毎年増車を 要が分かるようになって 製、条件を入力し「中田 純一、連続四〇%の伸び いる。」

中田氏は「初対面の商 して活用する。」 情報技術（IT）を駆使 主や同業者は「ただの運 また、一番の自慢は、 したイメージ戦略が欠か 送会社とは違う」という 積み重ねの強みからでき せない。

イメージを打ち出すこと した。創業。倉庫を「物 昨年六月、ロジ・コンが、新しい情報収集に結 束を置く場所」としてとら

## 新しい発想と向上心

ピエンス（佐野真二社 びづく」と語る。 えず、積み重ねる場所と

兵、兵庫縣尼崎市）が作 今月中旬には全車両に 位置付け、全国で荷物の 製した名刺用カードを デジタルタコグラフを装 環々足しを繰り返す。

採用、CD-ROMがそ 兼、年内に全地域構 構築は全くしていない のまま名刺として使える ステム（GPS）、自動 が、日貨運の運送する ほか、ドライブに入れれ 料金収受システム（RPT ネットワークK1やエ ば船をイメージした同社 C）も導入予定だ。デジ ス・ティー・アイ（宗野 のホームページ（HP） タコは、口頭でのインプ 英一社長、大阪市淀川

## 高い目標、利益出せる仕組み

区）などの求職求車シス 長）が開設する物流大学 テム、人脈を生かし荷物 校に通う。「自分のため を確保、あとは配車を工 の時間を増やす。様々な 夫して利益を生み出す。 情報を活用し、わたしが こととしては新車を四両入 いたなくても機能する組織 し、全車四数が二十二両 づくりを遂げたい。それ を実現させ、コンサルタ ント業務を行うのが夢」 と笑顔を見せる。



修了時に認定される物 産経系士士の資格が、その 第一歩となりそうだ。

になる。今期の売上高は、 一九六三年七月七日生 運送部門だけで二億四千 万円を見込んでいる。

専門知識の習得と人脈 町出身、Jリーグ「ペガ ル女台」で活躍する中 づくりのため、今年度は 田二三選手が実弟という 中野トトラック総合研修セ こともあり、サッカー観 ンター（高村博三理事 戦が趣味。